



## 教育経済 常任委員会

委員長 長島 正一

### 平成27年度 飯南町一般会計補正予算(第4号)

#### 地域振興費 50万円

内30万円は、長崎県大村市との友好交流都市協定締結に伴う交流促進事業として、小学生20名余を招き、1月9日より3日間、しめ縄づくりやスキー体験を行うための費用。

#### 畜産業費 1,200万円

下来島地内へ酪農参入を支援するもので、全額県の補助金。

将来は規模拡大の計画もあり、環境に配慮し、排泄物流失には万全を期すよう求めた。

#### 公営住宅建設事業費 583万円

この内、赤名公営住宅建設事業270万円は、工事請負費の増によるもの。基盤が軟弱なため、黒ぼく撤去により改良を図る。

#### 社会教育施設費 1,556万円

頓原公民館整備事業費で、民地購入費422万円、実施設計委託料・商工会・町車庫・民間車庫等の建物調査委託料1,133万円。

この複合施設整備の経緯や建物、土地の扱い、補償金等、周辺整備の青写真について考え方を開示するよう求めた。商工会から入居要望があり、ルールに基づいて保償と共に応分な負担を求めるとの見解が示された。



## 総務厚生 常任委員会

委員長 早樋 徹雄

### 平成27年度 飯南町一般会計補正予算(第4号)

#### 繰上げ償還元金、利子 2億2,635万円

カントリーエレベーター、新庁舎建設などの大型事業による公債費の増加を平準化するため、減債基金(2億円)を取崩して繰上げ償還するもの。

合併による地方交付税の激減緩和措置があるうちに、繰上げ償還により一層の財政健全化を図ることは評

価するが、一方、各種産業の振興による活性化策も模索しなければ地域活力が失われる。

#### 公用車臨時管理費 160万円

今後の緊急な支払に対応するための公用車の修理費の追加。

事故防止のため、文書による指導など管理監督の徹底を求めた。

### 飯南病院事業会計補正予算(第1号)

病院事業収益など6,927万円の追加で、入院・外来収入の増が主なもの。

地域住民が安心して住むことができるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指し、町民に信頼される病院として、一層の飛躍を期待する。

## 視察研修報告 平成27年11月25日～27日 徳島県神山町・那賀町

### 徳島県神山町(人口 5843人)

～IT系ベンチャー企業が集うまち～

県の中央部に位置し、過疎と少子高齢化の著しい町だが、町内全域に光ファイバー網が整備され、神山の里にはIT系企業が古民家を改修し、2015年9月現在12社がオフィスを開業・本社移転・新会社を設立している。

東京とは違った自然の中で働く「新たな働き方の革新」を求めると「まちづくりの革新」を求めるとの幸福な出会いがあって今日がある町。

仕掛け人であるNPO法人グリーンパレーは、町の将来にとって必要になる働き手、企業誘致だけでなく人材誘致を目指している。

人材育成事業として、神山塾を開業(全国から塾生を募集)し地域活動を通じ、イベント等のノウハウを学ぶ職業訓練を行っている。また、芸術・文化による地域再生を図るため、芸術家によるアーティストの作品を集めるなど、幅広いビジネス展開を図っている。

飯南町においても、革新的視点による地域創生と町内全域の光ファイバー網の整備は、急務と痛感した。



### 徳島県神山町・那賀町

### 徳島県那賀町(人口 9728人)

～1000mの山々に囲まれた山間地に暮らすお年寄りのミツマタ栽培～

以前は各地で、栽培・集荷が行われていたミツマタ栽培を那賀町の木沢林家家で作る研究会は、ミツマタが野生動物の被害を受けないことに着目し、植林を積極的に進め山林の荒廃防止に取り組まれていた。

収穫したミツマタを加工して出荷することで、「お年寄りの収入確保と地元との交流の場になれば」と話されていた。ミツマタの皮は、国立印刷局に紙幣用原料として、出荷されている。

険かな剣山系での栽培は、想像を絶するところだが、たくましく取り組まれる姿に感銘を受けた。

※紙幣用原皮 30kg当たり約9万円

※NHKの国産ミツマタの減少報道により、問い合わせが殺到しているそうだ。

## 視察研修報告 平成27年11月25日～27日 京都府綾部市・京丹後市

### 京都府綾部市(人口3.5万人)

～里山ねっと・あやべ～

NPO法人「里山ねっと・あやべ」を視察した。ここは交流と定住対策の拠点として15年前廃校となった豊里西小学校校舎が利用されている。統合時の児童数は48人あったが、現在の校区は約250世帯で、児童数は10人余りと聞き、少子化に驚いた。

その豊里西小学校を都市農村交流の拠点として綾部市が「里山交流研修センター」研修・宿泊施設として改修した。里山ねっと・あやべが指定管理しているが、市とこの法人がうまく連携して事業を行っていると感じた。

「米作り塾」「そば塾」「茶摘み体験」など、多岐にわたる事業を展開し、主に1ターン者の経営による農家民宿の定着や、自然なありのままの交流が行われている。定住希望者には定住後、後悔しないよう綾部の暮らしを何度も体験、感じてもらうことを基本としていた。

交流と定住促進にNPO法人が一翼を担っており、定住を推進する組織のあり方として参考となった。

### 京都府京丹後市

(人口5.8万人)

～市立久美浜病院～

平成27年2月、飯南病院と姉妹病院協定を締結した久美浜病院を訪れた。

この病院は、医師12名、歯科医師2名、歯科研修医5名、職員数144名、病床数170床、診療科目14科の規模で、この地域にふさわしい地域医療に取り組んでいる。赤木院長からこれまでの久美浜病院の取組、京丹後市における人材確保の試み、地方創生への思いなど説明を受けた。

医師間の支えあいによる久美浜病院の意識改革、病院と施設の協働、医科と歯科の一本化など、地域医療に対する院長の理念と強い思いを感じた(このことは後日、飯南町で開催された「第4回生きがい村学会」で赤木院長等によりお話いただき、参加者も大変参考になったのではないかとと思う)。

飯南町も地域包括ケアシステムの構築を目指し、「生きがい村構想」を推進しているが、力強い同志と思う。

両病院の交流が、医療、介護の各分野の連携となり、地域住民が安心して住むことができるよう願って、視察を終えた。

